

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	14-057	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Mortality and life expectancy of people with alcohol use disorder in Denmark, Finland and Sweden. デンマーク、フィンランド、スウェーデンのアルコール使用障害者の死亡率と平均余命		
執筆者		
Westman J, Wahlbeck K, Laursen TM, Gissler M, Nordentoft M, Hällgren J, Arffman M, Osby U.		
掲載誌		
Acta Psychiatr Scand. 2014 Sep 20. doi: 10.1111/acps.12330.		
キーワード		PMID
スカンジナビア、アルコール使用障害、疫学、死亡率		25243359
要 旨		
目的 デンマーク、フィンランド、スウェーデンのアルコール使用障害者の死亡率と平均余命との関係を検討した。		
方法 上記 3 国で 1987 年～2006 年に一次あるいは二次診断にてアルコール使用障害と診断されたすべての入院患者について追跡を行った。		
結果 追跡人年は 1,158,486 人年であった。一般住民に比べて、アルコール使用障害者では平均余命が 24～28 年短かった。1987 年～2006 年の間にアルコール使用障害者と一般住民の男性の平均余命の差は増加した(デンマーク 1.8 年、フィンランド 2.6 年、スウェーデン 1.0 年)。女性の平均余命の差はデンマークでは増加(0.3 年)したが、フィンランド(0.8 年)とスウェーデン(1.8 年)では減少した。一般住民と比較したアルコール使用障害者の死亡率は、全死因(死亡率比(一般住民を基準) 3.0～5.2)、疾病による死亡(2.3～4.8)、自殺(9.3～35.9)のいずれでも上昇していた。		
結論 アルコール使用障害者で入院した人の平均余命は男性で 47～53 歳、女性で 50～58 歳であり、一般住民と比較して 24～28 歳早く死亡することがわかった。		